

〔畑作関係〕

1 畑の除草剤について

1 大豆栽培におけるトリフルラリン乳剤、リニユロン水和剤混用の実用化

(1) 背景

トリフルラリン乳剤は広葉に、リニユロン水和剤はイネ科に効果がやや不安定である。両薬剤の混用を検討したところ、安定して高い効果が認められたので参考に供したい。

(2) 技術上の内容

処理法	処理時期	使用量(10a)	使用法
土壌処理	播種後、 出芽前	トリフルラリン 沖積 150 ml 火山灰 200 リニユロン 沖積 100 g 火山灰 150	水70ℓに希釈して土壌全面に均一に散布する。

普及上の留意点

イネ科と広葉が多い地帯に好適する。

試験成績

(昭50)

試験区	処理法	使用量 (a当り)	雑草量(m ²)			薬害	子実重
			イネ科	広葉	合計		
無処理			g 458	g 443	g 901		kg/a 32.1
トリフルラリン +リニユロン	播種後 土壌処理	20 ml + 10 g	% 10	% 8	% 9	無	% 108
〃	〃	20 ml + 15 g	4	5	4	〃	98
トリフルラリン乳	〃	30 ml	9	24	16	〃	108
リニユロン	〃	15 g	120	22	72	〃	114
〃	〃	20 g	34	17	25	〃	100

2 落花生マルチ栽培における畦間(歩き溝)用除草剤バーナレード剤の実用化

(1) 背景

畦間(歩き溝)の雑草は中耕除草だけでは不十分である。剤剤について検討した結果、バーナレード剤の土壌混和がすぐれた効果を示したので参考に供したい。

(2) 技術上の内容

処理法	処理時間	使用量	使用法
土壌混和	マルチ被覆後 ? 中耕除草期 (雑草発生盛期)	2.5 kg / 10 a (畦間 45 cm と して計算)	畦間(歩き溝)に均一に散布し ホーまたは管理機で攪拌する。

(3) 普及上の留意点

- ア まき床には使用しない。
- イ 土壌表面処理では効果が劣る。
- ウ 薬量は厳守する。

試験成績

(昭51)

試験区	処理法	使用量 (g/a)	雑草量 (m ²)			薬害	莢数 (ヶ/株)
			イネ科	広葉	合計		
無処理	—	—	g 3.2	g 37.3	g 40.5	—	21.0
トリフルラリン粒	マルチ被覆後畦間土壌処理	600	12.7	7.6	8.0	無	19.6
バーナレート粒	〃	600	15.9	14.2	14.3	〃	20.0
〃	マルチ被覆後畦間土壌混和	600	4.8	2.8	3.0	〃	21.2

(参昭45)

試験区	処理量 (kg/10a)	処理法	雑草量 (g/m ²)		薬害		子実重 (kg/a)
			イネ科	広葉	症状	程度	
(標) PHS	(成分 8g/a)	フィルム被覆	0	1.17	無	無	25.7
トリフルラリン(粒)	4	土壌混和	0.10	0.51	子房柄肥大抑制	中	24.0
バーナレート(粒)	4	〃	0.03	0.66	小葉異常	小	26.2
無処理	—	—	0.25	4.13	—	—	25.4

2 有機物の種類別地力増強効果

1 背景と特徴

畑地の地力増強に果す有機物施用の効果が高いことは良く知られるところであるが、近年における農業情勢の変化から、有機物資源の減少を来し、有機物の土壌還元が十分になし得ない状況にある。

このため、昭和49年度から総合助成試験課題として、有機物の種類による地力増強効果について検討し現在まで明かとなった結果を指導上の参考に供する。